

大即先生最終講義_質疑応答記録

1. 大学人（研究者，教育者）として長続きする秘訣はありますか？

答①例えば，海水練りコンクリートに関する研究の場合，当初は反対もありましたが，あきらめず研究を継続することで，成果を得ることができたのではないかと思います．研究者として長続きする理由は，逆境に耐え物事を継続する力にあると考えています．

答②例えば，コンクリートの専門家であっても，コンクリートの専門書のみを読み続けると，思考が陳腐化してしまいます．専門と関係のない本を読むことで，違う分野に対する知見を広めることも大切です．

2. これまで，低 W/C の場合に必ずしも耐久性が低下するとは限らないことや，温度変化による鉄筋腐食性状の変化など，柔軟な発想から多様な知見を創出していらっしゃいます．これまでに培われた知見を活かして是非，学会での基調講演をお願いしたいと考えています．

答①機会を頂けるならばお願いします．

3. 先生は，長い間，多くの博士課程の学生を卒業させてきました．大学に身を置く立場として，気になる点なのですが，博士課程卒業の基準はどのようにお考えでしょうか？

答①論文博士の場合は，特に，論文の質に重点を置いて学位授与の可否を判断しています．論文のみで学位を取得するのであれば，特筆すべき成果を創出すべきであると考えています．

答②課程博士の場合は，研究室生活，ゼミ，研究内容を総合的に考慮して卒業の可否を判断しています．

4. 最終講義中にも新たな研究に関する様々な着想を伺いましたが，柔軟な着想を具現化するエネルギーはどこにあるのでしょうか？

答①カラオケ，というのは冗談で，一見，奇抜に見える研究でも“もったいない”の精神が，具現化のエネルギーになっています．マグマを冷却し，骨材として再利用する研究の案は，西田先生と調査した結果，具現化できそうでした．海水練りコンクリートに限らず，奇抜だからといって切り捨てるのではなく，あきらめないことも，研究を具現化するために大切なことであると考えています．